



## 災害からの復興を支える地域の学びあい

近年大規模自然災害の発生や、新型コロナ感染拡大により、私たちは命や生活の危機に直面しています。被災地住民の活動に寄り添う講師から、「社会教育は、学習者が話し合いながら、自分たちで学びたいことをつくっていく教育活動である」「学びたいことを自分たちで組織する被災地住民の学習運動の中心には、震災前から社会教育活動を実践してきた人たちがいた」「科学的根拠に基づき、民主的に話し合い学習が保証できる公共空間をストックしておくことが、長い目で見た地域のレジリエンスに結びつく大切な要件である」など災害からの復興に果たす学びあいの大切さについて学ぶことができました。 受講者：80名

### <研修内容>

【講義】「地域のレジリエンスをつくる学びあい」

講師 東北大学大学院教育学研究科

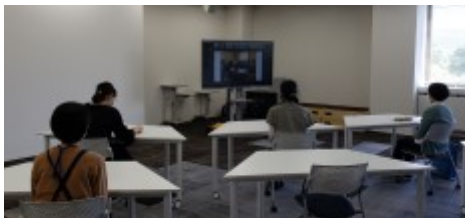
准教授 石井山 竜平 氏

【座談会】「復興の現場から学び取りたいこと」

パネリスト

石井山 竜平 氏

駒ヶ根市赤穂公民館 館長 小松 民敏 氏



### <受講者アンケートから>

- 防災学習は人権学習・平和学習だということ。災害時だけのものではなく、平時になんにもかわらないもの平時の延長にすぎないものだと感じた。
- （社協）防災は日ごろから人権を考えながら生活・学習していくことの大切さを教えていただきました。（諸団体・社会教育委員）
- 説明が論理的、具体的でわかりやすかった。（市町村職員）
- 学校教育と社会教育の違いから社会教育とは何かをあらためて学ぶことができた。（市町村職員）
- 9条俳句訴訟 無意識で自分も批判する側に立っていたんだと気づきました。反省！！女性で、一サークルの代表で、防災について意見を言うと批判を受けましたが、メゲズニ取り組みます。（一般）
- 自然は怖いものというとらえ方ではなく日常、自然の恩恵を受けていることを学ぶ。自然から鈍感にならないことなど、学ばせていただいた。（社協）
- 参加者も座談会に参加できる形で意見・講義の感想を聞くことができてよかった。（市町村職員）